

夏の経済教室記録大阪

8月5日（月）大阪 国民会館武藤ホール

会場となった国民会館は、大阪城の天守閣を正面に見る、大手門の角にある。暑い日であるが、会場の武藤ホールは熱心な先生方が集まり教室が開かれた。



会場から大阪城を望む

主催者あいさつの後、講義に入る。

1 時間目 小巻泰之先生講義「中学教科書で教える〈景気ってなんだろう〉」

名古屋と同じ、質問票をつかって講義をすすめる（参考名古屋）

(1) 一年後の株価

1万円以下 4名 11000から11500円 38名 11500から12000円 20名

12000以上4名（うち、11500は5名 11000は18名）

(2) 小遣いを使うか？

①20 ②32 ③15

この結果を、のちに桜修館中学校での結果と比較すると予告。



質問する小巻先生

1 教科書における景気、金融財政政策

中学教科書では、景気についての概説はあるが、なぜ景気変動するかについては書かれていない。高校教科書になると、景気循環のパターンが突然出てくる。

景気変動の原因（病気の原因）をしっかりと知らなくて、正しい政策（治療）はでてこないはずなのだが、不足している。

授業では、景気の変動を説明する際に、同じ予測なのだが、天気予報と経済予測の違いは何かを意識させるほうほうもあると考える。天気予報は私たちがいかにも変動させることができない。経済学でいう所与である。それに対して、景気は予測されると変わる可能性がある。自分たちが主役であるところが違う。その違いを明確にすれば景気への関心を高めることはできないでしょうか。

## 2 景気変動の理由

景気変動は大きく、消費と投資の二つの要因がある。

消費と投資のグラフを見ると消費の変動はあまり大きな影響を与えていないことがわかる。景気が悪くとも消費は変わらない。所得がさがっているので消費は減ってはいるだろうが、大きく減っているわけではない。

それに対して、投資の変動は大きい。景気変動を大きくしているのは投資の寄与が大きい。したがって、高校の教科書で出てくる景気の変動サイクル（ジュグラー、キチンなど）はすべて投資に関する経験則から来たものである。

では、次に、投資はどのように決定されるのかを考える必要がある。投資は将来の需要予測で決まる。また、投資に関しては、①設備完成までのタイムラグがある、②予測の見込み違いが起こっても途中で中止は少ない（大企業であればあるほど変更しにくい）という二つの特徴がある。将来の需要予測が極端に楽観的であったのが1980年代後半のバブル期である。

バブル時代の新聞記事（朝日、日経）から、ばら色、強気の予想をしていることが伺える。このようなバブルの発生の背景にあるのが、私たちは将来を完全に予想できないという、予測の不確実性の存在である。

先ほどのアンケートがここで使える。強気の予想と弱気の予想があるが、だいたい人間は過去のデータで判断することが多い。

中学生の結果で面白いのは、クラス差があることだ。ところが、隣と予測させると平均値になってゆく。企業が同調的な予測をする理由がここにある。つまり、だんだんみんなと同じ予測になってゆくのである。

先の結果を見ると、名古屋との消費の点で違うことが分かり興味深い。大阪の方が現在の所得を重視して消費を増やす傾向が強い。

中学生は、③の不足の事態に備えるは少ない。それは、時価的な視野の長さが違うからである。

②は、現在と将来の安定的な消費を考えて行動するタイプだが、これが多い。

③は、将来の所得不安に備えて行動するタイプ。中学生は少なく、大人は多くなる。②や③の消費パターンが多いと、経済政策は効かない。①が多い大阪は有望、名古屋は堅実だった。福岡や東京はどうなるか、全体の結果がまとまったらお知らせしたい。

3 じゃあ、どうすればよいのか？

みんなが「ありとギリギリ」の話のように、「あり」ではなく、「ギリギリ」にならないと景気は回復しない。お金をばら撒けばよいというのだけではダメである。使わなくては。

アベノミクスによりバブルが生じるという見方があるが、バブルの定義で見れば起こらないと考えられる。また、バブルは起こっているときにはわからない。バブルは何でもおきる。チューリップバブルがそうであり、AKBの握手券だってバブルになる。人々の期待だけではバブルはおきない。背景には新しいお金の供給手段の開発や新しい金融商品の提供がある。

先物取引、エクイティファイナンス、サブプライムローンなど。その中で、楽観的な予想のもとではリスクへの感覚が低くなる。

今回は、異次元の金融緩和が期待を膨らませているのではないかと推定できる。実は、実質的には野田政権の時に同じことをやっていた（当時は包括的金融政策と言っていた）。しかしながら、将来展望が開けず効果がでてこなかった。

4 まとめ

景気予測はあたらない。

人々の期待を制御するのは難しい。

人間の行動様式をしっかりと見て行きたい。

## 質疑

1 消費の影響力については？

答え 投資に比べれば弱いといったが、ないわけではない。GDPの6割は消費である。しかし、景気変動への影響力では投資の方が大きい。

2 ヘリコプターマネーについて？

答え アメリカの経済学者が言ったが、お金をまいただけでは景気には全く関係ない。使わなければ景気は良くならない。

3 小遣いの質問 世界的に違いがあるのか？

答え 消費行動に関する国際的な調査はある。たとえば、借金が簡単にできる状況かどうかの研究はある（日本は借りにくい）。なお、所得変動に関する消費行動への影響（今回と同じ調査）は、これまで大学の授業で実施してきたが、大学生では②と③の割合が増えてきている。全体に、日本では慎重派が増加している。

4 なぜデフレじゃダメなのか？安く買えればいいじゃないか、はなぜダメなのか？

答え 安く買えることは収入が減ることになる（短期的には誰かが得をするが、時間の流れの中では所得の減少につながり損をしている）。それをしっかり理解すればデフレがダメな理由が分かるはず。

5 大学の先生とのコラボ授業のあり方は？

答え 今回私が東京の中学でやったような授業が一例である。

6 景気が良い悪いをどう生徒に実感的に伝えられるか？ 見えないものをどう見えるように教えるか、ヒントが欲しい。

答え 難しい質問だが、大阪で言う「儲かりまっか、ぼちぼちでんな」という言葉から、景気は人々の財布（懐具合）が温かい場合には景気は良い。こうした直感的な景気の話になるかもしれない。

## 2 時間目 奥田修一郎先生＋野間敏克先生「経済の授業をエコノミストと作るく人エピラミッドから迫る社会保障」



提案する奥田先生

### 奥田先生の提案

この年になって立ち往生している。生徒、保護者が変わってきた。具体的な「ねた」で元気になりたい。授業研究をする時間がない。その現実を理解してエコノミストと共同作業を通していい授業をつくりたい。

#### 1 これまでの授業づくり

説明では 5 分もたない生徒が前提。子どもが知っているもの、興味深いもの、ここが勝負。これで決まっている。抽象的なものを噛み砕くには、身近なものから。市場メカニズムをどう教えるか。右上がりのもの、人気、ヒット商品が手がかかり。例えば、ラインなどなぜ無料か？など。

社会の仕組みを理解させるには、うまく機能しているのか、していないか、していない

とするとどう制度設計すればよいか（社会保障、年金問題）を一緒に考えてゆく。

行動経済学の側面に注目している。

年間計画 指導要領を踏まえて具体的にどんな授業ができるかの提案は資料に掲載したので参照して欲しい。

## 2 幸福の経済学

まず、幸せってどんな色？と問いかける。青、ピンク、白 など。メーテルリンク「幸せの青い鳥」のように青もある。

自分が考える幸せなものを質問する。そのアンケートを読む、まとめる。

ストーリー「ノビタの話（進学しない生徒でもこれなら大丈夫）」のゲームを用意して、幸せを考えさせる授業をいま開発中。

もう一つの教材提案、ありとぎりぎりのイソップバージョンと日本バージョン、アメリカバージョン（食べ物と音楽の交換）を比較して福祉問題の導入とする。

ここから、自己責任、お互いの助け合い、強制的に貯蓄させようのどれをえらぶかを選ばせる。賦課方式の説明を隣の人と行ってごらん。少子高齢化と賦課方式の問題を隣の人と行ってごらんと、授業をすすめる。

厚生年金の世代間格差に関して、どうすればよいのかをここから考えさせてゆく。

保険料の引き上げ、もらう年金を引き下げる、年齢を上げる、の三つのどれを選ぶかと聞く。積み立て方式を主張する人がいる。どちらがいい？と聞いてゆく。

積み立て方式のメリットデメリットの発展学習を調べてみよう、考えてみようとい問いかける。

ここまでで2から3時間かける。

これまではロールズの考え方でやってきたが今回は単純化したものを提案した。

### 野間先生のコメント

1 経済は抽象的なのだが、実は、現実から出てきている。だから、その背景にある膨大な事実を逆にもってきて、生徒に伝えられるものに絞ってゆくとよい。奥田先生の授業はそれが実にうまい。意外と経済学者が大学で教えている内容と近いことを教えている。

2 大学で社会保障を扱うときのキーワードはリスクで、特に長生きリスクに注目させる。そして、リスクに対してどう対処するかを整理する。

#### その1 自己責任

貯蓄で対応、保険で対応

年金も同じ 積み立て型は自己責任 民間と対応

単純な積み立て方式

その2 本来の姿は同世代どうしのリスク対応。これが年金積み立て。

修正積み立て方式は、無理やり助け合いグループに入れさせている。

## 13年 夏の経済教室記録（大阪）

世代間格差のデータ「日本の高齢者が若者から搾取するしくみ」ではないか。厚生労働白書 2011年版、4章にあるので参照して欲しい。

これを知ったら若者は年金を払う気持ちにもなれない。その現実を踏まえておしえておくことが必要かもしれない。

### 質疑

1 解決方法は、老人に生きにくい社会を造る必要があるなというのが本音としてうかびあがってしまうが、どう解決するのか？

答え 本来の年金の姿を思い浮かべながら、現実を直視するしかない。

2 理屈の感情のギャップをどうするか 老人は死んでしまえといわれない社会にしてほしい。

答え そのとおり。

3 経済成長と年金の関係はどうか？

答え 経済成長したとしても、実際の金額を出すと深刻さはわかる。

### 3時間目 野間敏克先生講義「歴史分野を経済で読み解く＜バブルの発生と崩壊＞

基本的内容は名古屋と同じ。名古屋記録を参照してください。



講義する野間先生

### 質疑

1 インフレは良くないとおもうのだが？

答え 2, 3%のインフレはあってよい。バブルに対応するのは日銀は得意（学習効果あり）のはず。

2 賃金は上がっていないのではないかと？それをどうするか？

答え これから少しずつ上がるのではないかと。

3 バブルを教材にするにはどうすればよいかと？

答え 具体的事例から入るとよいであろう。

4 若者が消費しない、その現実をどうするか？

答え なんともいえないが、新しい製品がでてくれば消費するようになるのでは。

#### 4 時間目 「みんなで語ろう＜経済教育を授業でどう生かすか？＞」

出席者、栗原久（東洋大学）、大倉泰裕（前文部科学省教科調査官）の両先生。

今回は、出席者数とコメンテーターの関係から、問題提起を受けて、質問表をもとに質疑を行う形とした。



問題提起をする大倉先生と進行役の栗原先生

##### 問題提起 1：大倉泰裕先生

文科省から学校現場へ戻った。現在、就職担当もやっている。今年は、公務員は多くなつたが、非製造業は少ない。製造業は回復、介護関係は引く手あまたである。

学習指導要領のできるまでを概観しておきたい。

ゆとり教育、学力低下の批判を受けて、思考、判断、表現をするために言語活動の充実が大きなテーマとなった。考え、判断したことを、相手に分かるように表現できていることが言語活動。社会科としてやるには中身にこだわるのが大事。書けばよい、話をすればよいという誤解がまだあるのではないかと。

思考力、判断力を身に付ける場を与える場を確保しよう。習得・活用・探究を深めたら、最後に総合で卒業論文を書いてみようという構成になっている。

経済の項目の説明にうつる。

仕組みの理解、契約の理解などが新しいもの。知識や概念を生徒にしっかりと身に付けさせているか？ 例：選挙に関してはどうか 経済でも同じ。

知識は必要だ、でもこれからの社会で必要な知識を自分で求めるようになってきているか、それが関心、意欲である。

問題提起2：栗原先生の話

まず、エピソードから。イギリスの20ポンド札の裏は何？ 答え、アダムスミス  
新しい経済の項目に金融がある。預金通貨、信用創造、72の法則、リスクとリターンなどを教えたい。

大きな政府、小さな政府、世界金融危機、金融資本主義、G20、ETA、EPA、ワーキングプアなども出てくる。効率的な資源配分、何かを選ぶのは捨てることまで書いている教科書もでてきている。

何をするのが経済教育なのか？  
経済の歴史？ 時事問題の解説？ 環境などの問題を考えさせること？そうではなく、考え方を提供するのが経済教育である。

見方や考え方を説明する。概念を使って現象を考えさせる。  
例えば、インセンティブ：村のヘビ退治の話。ヘビを育てるようになった。結局ヘビは減らなかった。2011年に奄美大島、屋久島では買い取りをしている。不況だと増えるそうだ。

活用は難しい。  
そこで質問。あさがお、ひまわり、たんぼぼ、これらは、花が咲くと、種ができる。では、チューリップ、じゃがいもは？ 種ができるのか？ 答え、できる。植物は種ができるという知識の活用である。

経済ではどうだろうか。交換は参加した人すべてに利益をもたらす？学生は否定的な回答をする。自由な貿易はすべての利益をもたらす？否定が全員。企業は利潤の獲得のために生産している？全員が肯定。信濃毎日新聞は利潤のために新聞を作っている？ばらける。銀行は利潤のために仕事を行っている？ばらける。

このように、経済概念を活用するには、教員の指導がないとだめ。

質疑：

1 野間先生の講義での国債化と自由化の関係は？

答え（野間） 国債化という用語が分かりにくかったかもしれない。国債発行が多くなり、国債の市場ができ、その利子率が国内経済だけでなく世界経済とリンク始めたことをいう。

2 アジア通貨危機について説明を。

答え（野間） ペッグ制でドルとリンクしている通貨が買われ、あるとき売られた、その連鎖が起きたと理解してもらえればよい。



3 関心意欲をどう数値化するか？

答え（大倉） 点数化はいかかなものか。5段階評価は記号である。あまり厳しくやると自分のくびを絞めてしまう。まずはざっくりとやるとよい。

4 経済を教えることで注意すべきことはどうなのか（株式学習ゲームなど）

答え（栗原） 体験をしたからといって学習したわけではない。ぶらんこと振り子の関係を想起するとよい。株式ゲームなどでいい面と悪い面を見せる。体験が学習を阻害することがある。手段を提供しているのでねらいは教員が決めればよい、教材にマル投げは危険である。

5 低い学力の学校でのよい教材はないか

答え（奥田） どうしたら人の心を動かせるか。それにはインセンティブが大事。小学校の先生の教材開発の方法を探す。彼らが何を欲しているかを目の前の生徒からスタート。なぜ荒れているか、生活体験をしっかり見つめるとよい。ホームレス中学生などもリアルに考えている。

6 研究者と現場の連携はどうか？

答え（新井） この教室がその例であろう。

7 授業作りと評価はどう関係しているか？

答え（大倉） 評価の前に、何を教えたのか内容が問題。

8 中学での授業での一貫したものは何か

答え（栗原） 歴史で経済を学ばせる、地理で経済を学ばせることも考えると一貫したものがみえてくるのではないか。